

主の名に命をかけた集中

(I サム 17:45)

「ダビデはペリシテ人に言った。「おまえは、剣と、槍と、投げ槍を持って、私に向かって来るが、私は、おまえがなぶったイスラエルの戦陣の神、万軍の主の御名によって、おまえに立ち向かうのだ。」

序論 - 正しい流れを知り、流れに身を任せなさい

- 1)目の前の働きや実より正しい流れに乗っているかが重要である(ローマ 8:2)
- 2)真の始まりと終わりを知れば正しい流れが見える
- 3)始まりと終わりを握れば流れの中へ入れる

本論 - 働き人の目

1.ゴリアテのような子供たち(現場)

- 1)次世代は私よりも強力な創 3 章(私の中心 - 神はない)の最新兵器の世代である
- 2)次世代は創 6 章(罪悪が蔓延=あらゆる関係の断絶)が深まる不通の世代である
- 3)次世代は創 11 章(肉的成功中心 - 悪魔崇拜)の暗やみ文化でワンネスになる世代である。

2.ダビデのような働き人の自己点検

- 1)絶対不可能な子供の働き(職業軍人であるゴリアテと戦い初心者であるダビデ)
- 2)国の運命をかけた対一の代表の争い
- 3)絶対不可能なダビデがゴリアテに勝利することができる唯一の方法

3.勝利する働きの秘訣(ガラ 2:20)

- 1)御言葉を持って信仰に生きようと頑張っているのにも関わらず、毎日無力に罪に引かれて行く理由(ローマ 7:19~21)
- 2)キリストの十字架の死と復活の意味
- 3)勝利の秘訣 - 毎日が死の連続(I コリ 15:31)

結論

ダビデは主の名によってゴリアテの前に進むとき、三つの死を覚悟しなければならなかった。

- 1)主の名をむ妄りに呼んだ者は死ななければならない(出 20:7 罪の問題)⇒ローマ 10:13
- 2)見える力ではゴリアテに殺されるしかない(創 6:3 絶対不可能)⇒ピリピ 4:13
- 3)神様の計画が私の死であれば死ななければならない(神の主権)⇒エステル 4:16 /ダニ 3:18

この三つの死が、イエス・キリストの十字架の死によって成し遂げられた。限界が来たとき、行き詰まったとき、混乱したときに、命をかけて、全てを尽くして早く、キリストと共に死んでいることを新たに信じて告白しなさい(自分の十字架)。そうすれば私のキリストは毎日更新されて、リセットされる。その結果、私の生活も毎日新しい勝利を味わえる。キリストと共に死に、キリストが生きたびに、私は強くなり、昨日より一歩進むことができる。